

校内研修活性化 事例紹介

－ICTを活用して効率的・効果的に－

倉敷市立 東陽中学校

効率的・効果的に授業を観合い語り合う風土の醸成が進む取組を取材しました

若手もベテランも、ICTを活用した授業研究でレベルアップ！



東陽中学校 山本校長へインタビュー

「『まずはやってみましょう！』を合言葉に、未来を生きる生徒に必要な資質・能力や、育成したい生徒像を校内で何度も話し合い、合意形成を経ながら研修を進めています。『ICT活用』を中心とした研究は、毎年ステップアップしながら3年目を迎えました。校内研究では、若手が中心となって様々な挑戦をしてきているおかげで、ベテランも刺激を受け、職員全体がレベルアップしていることを実感し、嬉しく思っています。」



活性化ポイント①

職員全員が、年に1度はICTを活用した公開授業を実施



1人1台端末を活用した研究授業

校内全体の授業公開日を年間3日程度設定しており、**教員全員が年に1度はICTを活用した授業研究を実施**しています。そのため、普段でも「あのアプリどうやって使うの?」「〇〇したいんだけど、何かいい方法ないか教えて」等、**職員室で教員同士が気軽にICT活用について情報交換**を行っています。この情報交換が、互いの授業力向上につながっています。

活性化ポイント②

研究授業の成果や改善点をデジタルで記録→全員でシェア



授業後の研究協議

研究授業は「その日が過ぎれば終わり」ではありません。授業公開後は、毎回授業者と参観者で振り返りを実施し、次につながるように「成果や改善点」を明確にします。授業参観した授業改革推進リーダーや指導主事からの**指導・助言を、デジタルで記録し、職員全体で共有し、日々の授業や次回以降の研究授業に生かすことで、着実なレベルアップを図っています。**

「子供たちのために必要なことは、どんどんやってみよう」という校長先生の前向きな姿勢、適切な人材配置及び公開授業の計画・実施が好循環を生み出し、学校全体にICT活用を含めた新たな挑戦に取り組む風土が醸成されていました。



リーフレット
「授業を探究する
学校」のダウン
ロードはこちら

